

第3回江南市協働のまちづくり推進協議会 会議要旨

会議名：第3回江南市協働のまちづくり推進協議会

開催日時：令和6年7月30日（火）午後3時30分から午後5時まで

場所：江南市地域交流センター 会議室1

委員：出席委員8名

- 佐藤 正之（学識経験者）
- 小畑 勝士（江南商工会議所）
- 渡邊 葉月（江南金融協会）
- 大池 夏子（公募市民）
- 中村 祥（市民活動団体関係者）
- 坂口 悦子（市民活動団体関係者）
- 佐野 宴（市民活動団体関係者）
- 伊藤 光洋（江南市社会福祉協議会）

- 事務局：平松 幸夫（企画部長）
矢橋 尚子（企画課長）
吉井 陽一（企画課 政策・協働グループリーダー）
白木 淳也（企画課 政策・協働グループ）
古田 真吾（企画課 政策・協働グループ）

江南市地域交流センター運営等業務受託者出席者1名

- 資料1：江南市地域交流センター令和5年度総括
- 資料2：令和5年度江南市地域交流センターKPI 報告書
- 資料3-1：江南市地域まちづくり補助事業について
- 資料3-2：江南市制70周年記念地域まちづくり補助事業採択事業一覧
- 資料3-3：令和7年度 江南市地域まちづくり補助事業について

議題	(1) 江南市地域交流センターの運営状況について (2) 江南市地域まちづくり補助事業について
----	--

会長挨拶

議題

(1) 江南市地域交流センターの運営事業について

○事務局から、地域交流センターの令和5年度の実施報告、KPI 報告について説明がありました。

委員	地域交流センターで様々なイベントを実施されましたが、その感想としてはいかがでしょうか。
事務局	地域交流センターのハーフアニバーサリーイベントなど多くの人が集まるイベントを企画し開催することができましたが、人を集めるだけでなく、2年目以降は市民活動団体自らが考えて発表する機会を設けるなど、地域交流センターの趣旨にあったイベントの開催をしていきたいと考えています。
会長	地域交流センターの機能以外のことでも窓口の対応があるかと思いますがどういった対応がありますか。
事務局	駐輪場、駐車場でお困りの方からの相談などがありますが、誰一人取り残さないよう意識をして対応しています。
会長	施設の顔のような面もあるので、KPI とは別のものになりますが、そういった対応により場所の価値があがるということもあるので非常に良いと思います。
委員	発表などのイベントでは身内の方が集まる印象があるので、駅前広場のキッチンカーと合わせたイベントにすることで、関係者でない方も立ち寄る可能性があり、参加者が多くなることで交流する機会が増えていくと思います。
委員	KPI③に記載のある新しく増えた団体について、どういった団体がどのような理由で増加しましたか。
事務局	老人ホームで楽器を演奏する団体やお子様の本で古くなったものをシェアする団体、無料で英語を教える団体などがあります。また、新しく施設ができたということから、施設を使い登録につながった団体も多くあります。
委員	同じ建物にある図書館と連携したイベントが少ないという声を聞くことがありますが、イベント、企画などの予定はありますか。
事務局	月に1回、施設の連携会議があり、その会議でも協議していますが、スケジュールの都合などで開催が難しいことがあります。時期などを合わせていけるよう連携会議で調整していきたいと思っています。

(2) 江南市地域まちづくり補助金について

○事務局から、江南市制 70 周年記念地域まちづくり補助事業の採択事業についての説明と令和 7 年度江南市地域まちづくり補助事業について説明がありました。

・江南市制 70 周年記念地域まちづくり補助事業の採択事業について

会長	事業の実施状況はどのようになっていますか。
事務局	具体的な日程が決まっている団体の情報は、地域交流センターの情報誌「とことこニュースレター」7月発行号で紹介しています。その他の事業につきましては、今後、市、地域交流センターの SNS 等で紹介していきます。
委員	どのような点に重点を置いて事業を採択しましたか。
事務局	通常の展開コース、連携コースに準じた上で、今回のコースでは 70 周年事業のコンセプトである SDGs、全世代対象のほか、「おめでとう」「ありがとう」と市民の皆様が互いに想いを伝え合いみんなで盛り上げる周年事業らしい事業であるかという点に重点を置き、審査会において採択事業を決定いただきました。
会長	事業完了の報告はどのように行う予定ですか。
事務局	例年は、3月の地域まちづくりフォーラムで各団体によるプレゼンテーションで報告いただいておりますが、今回は 10 団体の採択ということもあり、掲示による発表やブース出展などによる発表により、活動内容について共有できる機会を設ける予定です。

・令和 7 年度江南市地域まちづくり補助事業について

委員	申請書の書き方についてフォローを手厚くするようにしてほしい。
事務局	相談会について、これまでは市の指定した 3 日間の中で、日程を調整いただき、相談会に参加いただいていたが、地域交流センターで相談できるようにし、申請予定の団体の都合に合わせて予約が取れるよう変更しています。期間中であれば何回でも相談が可能となっています。その中で申請書の書き方などのフォローも行っていきます。
事務局	今回の事務局の案では 5 点の変更点のうち、4 点は団体にはプラスに働く内容のものになっていますが、1 点は申請回数の上限を制限することになりマイナスな印象を受ける団体もあるかと思えます。これは令和 5 年度の地域交流センターの開館以降 49 の新規の団体登録があり、より多くの団体を支援できるようにすること、またこれまでのように 3 年間のコースがあることで補助制度の見直しに柔軟に対応できないという面もあるため、今回の変更により、協議会で補助金の検討

	が必要な際に、柔軟に対応できる体制としていきたいと考えています。
委員	今回審査方法をプレゼンテーションから、ヒアリング、書面審査会に変更することにより、審査結果や内容を団体へどのようにお知らせすることになりますか。
事務局	書面にて結果とあわせ、審査会で出た意見をお知らせします。
事務局	今回補助金の期間を短くするという事で、今後の補助金の見直しについては機動性が高くなるかと思しますので、引き続き協議会の中で補助金の金額、期間、対象事業などについてご意見をいただければと思います。

令和 6 年 7 月 30 日
江南市地域交流センター

江南市地域交流センター令和 5 年度総括
～本事業の骨子をふまえ～

1. 本事業の骨子：江南市地域交流センター発「全世代・全員活躍のまち」推進事業

2. 本センターの目的：

江南市地域交流センター（以下「地域交流センター」という。）は、年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず、すべての人が様々な活動や交流を通じて、生涯にわたって活躍できるよう、多様な主体が集い、対話し、行動する地域協働の拠点として、地域資源の集約と発信、地域課題の解決に向けた自主的かつ自発的な行動の促進、新たな活動を創出できる環境づくりに取り組むことを目的としました。

今年度は開館ということもあり、業務すべてがゼロからのスタートでした。まずは施設業務を立ち上げることが第一の目的でしたが、初年度から施設が駅前地ということもあり、多くの方に施設をご利用いただき稼働率は 11 月に 63%を超え、年間平均は 46%でした。

まずは多くの方に施設をご利用いただくことができ、江南市地域交流センター発「全世代・全員活躍のまち」推進のためのスタートを切った年であったといえます。

3. 業務内容について

地域交流センター運営等業務

職員は、利用者への接遇、事業等の実施に必要な知識・技術の向上に努め、諸設備の日常的な管理、設備利用申請の受理、対面相談、問合せ対応等の日常業務を行うとともに、官民連携施設（複合施設）の特性をふまえ、多様な人、多様な目的でいらした来場者にたいしてのトータルケアを行いました。

各種法令や仕様書に則り部屋の貸し出し業務、作業コーナーの運営ほか多様な事業を行いました。

各種情報収集・提供業務

令和5年4月から令和6年3月までに市民活動団体は40団体増加し、各団体の情報提供や収集に努めました。

その他、作業コーナーや会議室を利用される団体とコミュニケーションをはかり、信頼関係を築いています。

SNSやホームページ等、気軽にアクセスのしやすい媒体も活用し、更新を積極的に行うとともに助成金情報、各種団体の情報を提供しました。

また、近隣市町の同種同類施設のヒアリングを行いました。

江南市地域まちづくり補助金制度運営支援及び補助団体支援業務

市と連携して、江南市地域まちづくり補助金制度運営支援及び補助団体支援業務を行いました。相談会に同席して申請内容を把握し市民活動団体の取り組みを支援しました。

センターホームページ・SNS等で周知を行うほか、70周年補助事業ではセンターでチラシを作成し、PRの支援を行いました（令和6年度にかけて行った相談会では17団体、延べ26回の相談を受け付け、14団体の応募につながりました）。

また、補助金交付団体への支援として、情報紙への積極的な掲載、イベント案内の広報の協力等の支援に努めました。

ロッカー等貸出業務

ロッカーの管理の他、会議室や作業コーナーを頻繁に利用される団体へ積極的に利用案内を促しました。（ロッカーは8件の使用がありました）

チラシは配架希望があれば都度市へ確認をとり、配架の管理を行いました。また、より分かりやすく配置するために近隣の類似施設で良いと感じたことを積極的に取り入れる等工夫をしました。

システムの開発について

令和6年4月1日から開始するための貸室予約管理システムを稼働させました。これによりクラウドで市と貸室状況が共有できるようになり、リアルタイムで施設の空き状況が公開されるようになりました。

その他

- ・団体からの登録内容の変更等を記録し、都度更新を行いました。
- ・地域交流センターの利用状況は、毎月月報にてご報告をいたしました。
- ・交流センターパンフレット、会議室利用案内やSNS案内等の他、催事毎にチラシを作成し、多くの方に事業の参加していただくきっかけとなりました。
- ・毎日欠かさずメール対応を行いました。メールアドレスは全員で共有メールを使用し、ミスや漏れを全員でチェックできる対応をしております。
- ・市と連携し、審議会への出席や事業への協力、その他事業目的に資する業務を行いました。
- ・事業を行う際は都度市へ確認し、必要に応じて業務を行いました。

以上

研修業務

<彩色まちづくりゼミナール等の開催（年2回以上）>

第1回目（8月23日開催）は区・町内会の運営をテーマに講演会を開催しました。（36名参加）

第2回目（10月21日開催）は市民活動団体やこれから始めたい方へ向けて、アイデアを相手に伝える手法についてセミナーを開催しました。（19名参加）

<コミュニティ人材の育成（随時）>

第2回目（10月21日開催）は市民活動団体やこれから始めたい方へ向けて、アイデアを相手に伝える手法についてセミナーを開催しました。（19名参加）

また、コミュニティ人材の育成として学生を中心に江南について議論し、プレゼン能力等を磨く「江南まちづくりLabo57」を開催（10月27日、11月17日、12月15日、1月26日）を開催しました。（21名参加）

これらの事業は継続性と発展性を持たせ、よりブラッシュアップして次年度に引き継ぐ形で開催を行い、地域課題に取り組みます。

交流業務

地域交流センターが多世代・多様な人々の交流の場となるために、誰もが訪れたいくなるような幅広い分野にわたる企画を立案し、新たな交流の機会を提供しました。

また、各種活動の持続・活性化を図るため、活動同士の新たなネットワークが生まれる場となるように情報交換や交流を促進しました。

さらに、幅広い世代が集うコミュニティの活動の場となるために、地域のふれあいの場として親しまれる施設となるような企画を立案し、実施しました。

<地域まちづくりフォーラムの実施>

江南市地域まちづくり補助事業の採択団体による事業報告会を通じて、事業の成果と課題を共有し、参加者同士の交流を図りながら、市民活動やボランティア活動の発展を促す場とするとともに、新たに参加する市民等を増やすきっかけづくりとなる事業を企画し、運営を行いました。（3月17日開催、45名参加）

市民活動団体の補助事業対象者（5団体）の成果発表会の場を持つとともに江南まちづくりLabo57の参加学生の活動報告を取り入れたり、地域の活動そのものが地域の魅力を作り出すと名古屋産業大学の傍嶋教授を招いて講演を行う等、多世代の交流を図りました。また、今後は地域の多様な人々と関わりながら、活動を継続します。

<その他>

市民活動が中心となり、誰でも気軽に訪れ楽しむことができる場として「ひとコトこうなんマルシェ」や、だれでも参加可能な、市民の交流を目的とした「コミュニティカフェ」を企画しました。令和6年度より実施します。

令和5年度 江南市地域交流センターKPI報告書

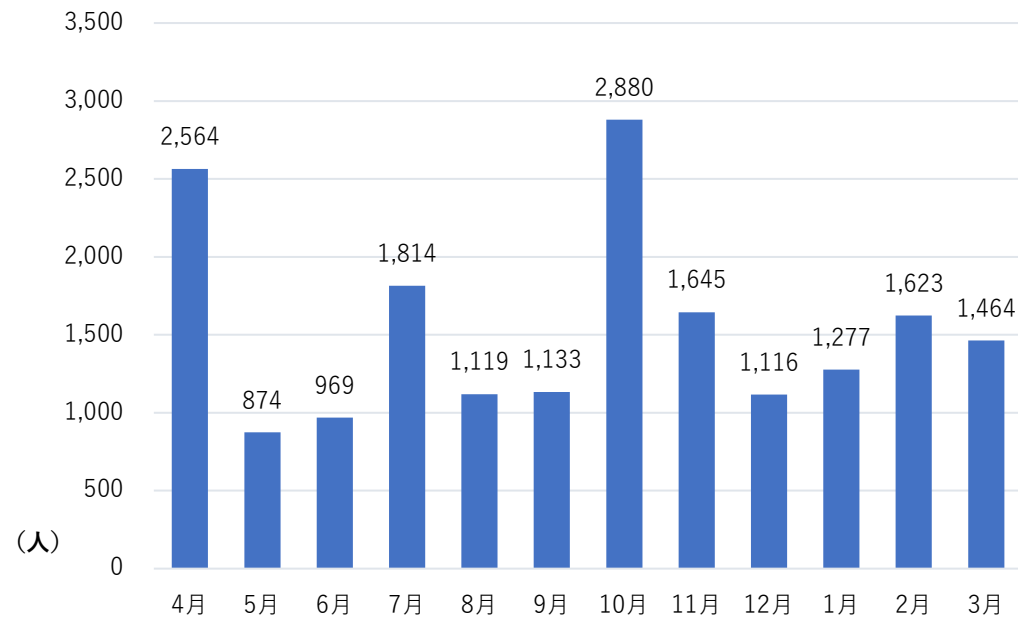


KPI① 江南市地域交流センターの利用者数

- 目標値 7,500人
- 実績値 18,478人（達成率 246%）
- 月別の平均利用者数 1,540人

○月別の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	2,564	874	969	1,814	1,119	1,133	2,880	1,645	1,116	1,277	1,623	1,464	18,478



- 令和5年度の地域交流センター利用者数については、目標値7,500人に対し、実績値18,478人で目標値を大きく上回った。
- 月別の利用者数について、10月が2,880人で最も多く、5月が874人で最も少なかった。月別の平均は、1,540人であった。
- 4月は市長・市議会議員選挙の投票会場として利用され、10月は交流センターのハーフアニバーサリーとして「トコトコぞくぞくフェス」が開催されたことから大幅に利用者数が増加した。

KPI③ 地域コミュニティの団体数

- 目標値 毎年5団体の増加
- 実績値 3団体の増加（達成率 60%）

KPI設定時（R3年度末時点）464団体⇒実績値 467団体

（目標値（R5）469団体）

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	増減 (R5-R3)
区・町内会	133	133	134	1
NPO・ボランティア団体	144	141	173	29
消防団	5	5	5	0
PTA	15	15	15	0
交通安全パトロール	72	71	66	△6
老人クラブ	59	43	40	△19
子ども会	36	37	34	△2
合計	464	445	467	3
増減	—	△19	22	

- 令和5年度の地域コミュニティの団体数については、地域交流センターの開館に伴いNPO・ボランティア団体の新規登録が40団体であったが、コロナ禍において活動の機会が減少した団体の解散や老人クラブなどのコミュニティが減少し、467団体となった。
- 令和4年度からの増加数は22団体であったが、KPI設定時と比較すると3団体の増加であるため、KPIの達成率は60%となった。

KPI② 当該事業により実施したイベント等行事の参加者数

- ・ 目標値 336人
- ・ 実績値 1,056人（達成率 314%）
- ・ 月別の平均参加者数 88人

○月別の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
参加者数	19	36	33	44	76	31	553	49	51	56	39	69	1,056

イベント内容

トコトコぞくぞくフェス	500人
スマホ・パソコン初心者相談会	365人
江南まちづくりLabo57	73人
彩色まちづくりゼミナール	69人
まちづくりフォーラム・まちづくり補助事業公開審査会	49人

- ・ 令和5年度の地域交流センターで実施したイベント等の参加者数については、目標値336人に対し、実績値1,056人で目標値を大きく上回った。
- ・ 月別の利用者数について、毎月尾北シニアネットによる「スマホ・パソコン初心者相談会」に30人程度が参加している。10月は交流センターの HALF ANNIバーサリーとして「トコトコぞくぞくフェス」が開催されたことから553人で最も多くなった。月別の平均は、88人であった。

江南市地域まちづくり補助事業について

1 ありがとう！江南市70周年記念コースの採択事業について

「資料3-2」参照

2 令和7年度地域まちづくり補助事業について

「資料3-3」参照

3 令和7年度地域まちづくり補助事業の予定について

申請説明会：令和6年10月中に2回程度開催予定（地域交流センター）

募集期間：令和6年10月1日（火）から11月30日（土）まで
※相談会への参加が必要募集コース：ひろげよう！展開コース（上限10万円、80%）
つながろう！連携コース（上限20万円、90%）

募集後のスケジュール

令和6年12月中旬	書面精査（事務局）
令和7年1月中旬 （同日）	公開審査会（団体ヒアリング）※1団体あたり10分程度 非公開書面審査
令和7年4月	交付決定

江南市制 70 周年記念

地域まちづくり補助事業 採択事業一覧



江南市は、地域で活動する団体などが工夫を凝らして取り組む、地域がつながり地域を良くしていくこうとする事業に対して補助金を交付しています。

令和6年度の市制 70 周年記念事業として採択された「地域まちづくり補助事業」を紹介します。

◇ありがとう！江南市 70 周年記念コース 10 事業

事業名	実施団体	事業内容
江南市制 70 周年記念 江南市民による市の魅力発信～アマチュア無線特別局開設事業～	ふじのはな アマチュア無線クラブ	江南市制 70 周年を記念して、アマチュア無線 JARL 特別局 8J2KONAN を開設します。公開運用・体験運用を実施し、どなたでもアマチュア無線を体験して頂くことができます。市民の皆様幅広く認知して頂き、江南市防災無線網構築を目指します。
区民全員の命を守りたい「安心感のある街へ」～布袋区から発信する防災のしおり作成を通じた住民繋がり事業～	布袋区	住む人ひとりひとりが「安心感」を感じられるように、もう一度自分が住んでいる町を見つめ、災害に対し、自助・共助を考えられるような冊子作りを、住民の協働で行い、全戸配布することにより、住み続けたい町、人と人が繋がる町への気運を高める活動とします。 今年度の小学校下自主防災訓練までの発刊により、訓練参加の重要性を再認識へと導きます。
布袋発！多世代繋がり事業 ～野点で HAPPY 交流 PROJECT～	Happy Project 「敬・愛・信」	若い世代が、市制 70 周年という節目に、地域の人と人とのつながりを模索できるツールとして、カフェではなく、あえて野点に焦点を当て、日本の文化・歴史などを回顧しながら、相互が楽しめる交流の場所作りをします。方法として、地域の協働で野点セットを作成し、布袋中学校茶華道部が中心となり、老人会、小学校児童のほか、多様な世代交流模索し、実行します。
江南市で“こうなんだ!! こうなん体操” PR 動画作成	江南市スポーツ推進委員会	江南市スポーツ推進委員会として、考案した“こうなんだ!! こうなん体操”を市内の名勝史跡や市庁舎、学校等で撮影し、DVD を作成します。作成した DVD でいろいろなアイデアを出しながら、こうなん体操を知って活用していただく機会を増やし、江南市制 70 周年を盛り上げます。
「来て、見て、出会って、世界の輪」多文化サロン	江南市国際交流協会 ふくらの家	江南市民である外国人と共に、世代や国籍を超えて、地域の人達と交流する「多文化サロン」を開催します。サロンでは、外国人講師と日本人スタッフによる「世界の紙芝居」や「お国紹介」、「外国人のあそび」など参加者と一緒に楽しめる催しを行います。

事業名	実施団体	事業内容
平和の柿アート 併催 藤花ちゃん 江南 70 年ワーク ショップ ～江南を 知ってもらおう事 業	公益財団法人晴嵐館	書道の美術館「公益財団法人晴嵐館」は、当館の平和の柿8年の成長を記念して Home&nico ホール（江南市民文化会館）に飾る平和に感謝する書作品等を募集します。作品展では、市政70年の成長を記念して藤花ちゃんにちなんだワークショップを実施します。
エコアクションで 未来が変わる～こ うなん SDGs プロ ジェクト～	えこすく (ecology school)	江南市の皆さんの環境問題意識の向上とまちのイメージアップを目的に、プラスチック汚染問題に焦点を当てたプロジェクトを実施します。映画「プラスチックの海」鑑賞会を皮切りに、市民が1か月間、プラスチックの使用やごみの削減にチャレンジします。また、SDGs スポーツ「プロギング」イベントを通して、市内の美化と地域のつながりを作ります。
みんなで SDGs ゴ ール5！ジェンダ ーかるたプロジェ クト 2024	江南市女性連絡協議会	SDGs ゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」をテーマに、子どもからお年寄りまで皆が集い、楽しめる「ジェンダーかるた大会」を開催します。地域の学生や市民の皆さんの協力で制作した江南市ならではのオリジナルかるたを使い、楽しくジェンダー平等を学んで「誰もが活躍できる社会」について考える機会を作ります。
地元、初の江南高校 卒プロ野球選手「松 田 亘哲（ひろあ き）さん講演会」 ～不可能と思われ ていたことを実 現！ ～子どもの挑戦力 の育成と、大人もチ ャレンジの大切さ を再認識する講演 会	尾張芸術文化懇話会	地元、初の江南高等学校卒元プロ野球選手である松田亘哲さんの講演会を開催します。高校生の時にバレー部で、名古屋大学卒というプロ野球史上最も異色と言える経歴でプロ契約を果たし、大きな話題となりました。誰もが不可能と思うことを実現した挑戦力について、また文武両道のこれまでの歩みについてお話しいただきます。
みんなの住みたい まちは「こうなん だ！」事業 ～子育てしやすい まち江南市となる ために～	KONAN子育て委員会	江南市の子育て世帯を対象に、親子セミナーを3回開催します。 参加者同士が持つ悩みを気軽に共有し、お互いの育児経験から学べるような機会を作ることにより、同じ地域で暮らす仲間と支え合える環境を作っていきます。

令和 7 年度 江南市地域まちづくり補助事業について

令和 7 年度江南市地域まちづくり補助事業の方向性については、令和 5 年の地域交流センター発足以降、新たに 49 団体が市民活動団体として登録されたことから、新規団体に対してまちづくり補助事業の周知を図るとともに補助金を活用した事業の発展を促していく必要がある。

市制 70 周年記念事業として新設した「江南市 70 周年記念コース」では、想定を上回る 13 団体の申請があり、申請書の簡素化やプレゼンテーション審査の省略も 1 つの要因であったと考える。

また、本市は自治体による SDG s の達成に向けた優れた取組を提案する都市として「SDG s 未来都市」に選定され、今後は官民共創で地域課題を解決していく仕組み（プラットフォーム）を構築し、地域交流センターを拠点として運用していく予定であるなど、補助金以外の面でも市民活動の支援を充実させていくことを踏まえ、以下を事務局（案）としたい。

○ 事務局（案）

1. 補助事業の申請説明会を地域交流センターで 2 回程度開催する。
 2. 申請様式（事業計画書）を、簡素化する。※別紙（案）参照
 3. 審査方法を、申請団体へのヒアリング及び書面審査とする。
 4. 成果報告のフォーラム出席を任意とし、掲示等の報告形式を多様化する。
 5. 両コースの補助期間を単年度とする。
- ※展開コースは、採択の上限を 1 団体 2 回までとする。
- ※連携コースは、同一団体での採択の上限を 1 回までとする。

＜参考＞現行の制度比較

	展開コース	連携コース	市制 70 周年コース
内容	最大 3 年 10 万円（上限 80%）	最大 2 年 20 万円（上限 90%）	単年 5 万円
利点	・複数年補助 ・備品補助対象	・複数年補助 ・備品補助対象	・申請のしやすさ ・フォーラムへの参加が任意 ・書面申請及び審査
欠点	・複数年の事業計画及び効果検証が団体への負担 ・フォーラムへの参加が必須	・複数年の事業計画及び効果検証が団体への負担 ・フォーラムへの参加が必須	・審査材料の不足 ・備品補助対象外 ・補助額が少額

◆申請書の記載例（つながろう！連携コース）

江南市地域まちづくり補助金（つながろう！連携コース） 事業計画書

※スペースが不足する場合は、記入枠を拡大して記載してください。

1 団体概要

※団体の規約または会則、直近の収支決算書または予算書を添付してください。（区・町内会、老人クラブ、子供会、PTAは添付する必要はありません。）

※連携コースの同一団体での採択の上限は1回までです。

① 代表団体

名称			
代表者		設立年月	会員数
住所	〒		
連絡先	TEL :		TEL :
	E-mail :		
設立の目的・これまでの活動内容等			

② 連携団体（複数ある場合は、記入枠を複写し、各々の団体分記載してください。）

名称			
代表者		設立年月	会員数
住所	〒		
連絡先	TEL :		TEL :
	E-mail :		
設立の目的・これまでの活動内容等			

2 事業計画（令和〇〇年度に取り組もうとする活動内容）

① 事業名	
② 問題意識 事業をはじめようと思ったきっかけについて具体的に記載してください。	
③ 事業の内容及び実施方法 内容、方法、場所、誰・何を対象に、どれだけなど、事業の具体的な実施内容を記載してください。また、組織体制、内容、手法、情報公開など、事業実施にあたっての工夫についても記載してください。	
④ 事業のスケジュール 準備から事業終了まで、令和〇〇年度内のスケジュールを具体的に記載してください。	
日程	予定

⑤ 期待される効果

地域住民や今後のまちづくりに向けてどのような効果が期待できるか記載してください。

⑥ 将来展望 将来の事業展開について

※今後、どのように事業を継続、展開していきますか。補助期間終了後の活動について記載してください。

⑦ 備考

その他、アピールしたいポイントなどがあれば記載してください。

申請事業収支予算書

※スペースが不足する場合は、記入枠を拡大して記載してください。

事業名	
-----	--

【支出】

(単位：円)

項目		予算額	内訳・積算根拠
補助対象経費	報償費		(謝礼以外： 円)
	交通費		
	印刷費		
	消耗品費		
	物品費		
	通信料		
	保険料		
	委託料		
	使用料、賃借料		
	食糧費		
	合計 A		
対象外経費	お菓子代		
	合計		
合計			= 「事業費総額」

【収入】

(単位：円)

項目	予算額	内訳・積算根拠
この事業による収入 B		
地域まちづくり補助金 C		
自己資金 D		
合計		= 「事業費総額」

※ **C**、**D** は、下記計算式により算出します。

補助対象経費合計 A	この事業による収入 B	補助率 (9)	地域まちづくり補助金 C
(-)	× 9 /10 =
			<input type="text"/>
(1,000 円未満切捨て)			
「事業費総額」	この事業による収入 B	地域まちづくり補助金 C	自己資金 D
	-	-	=
			<input type="text"/>

江南市地域まちづくり補助金（つながろう！連携コース） 事業計画書

※スペースが不足する場合は、記入枠を拡大して記載してください。

1 団体概要

※団体の規約または会則、直近の収支決算書または予算書を添付してください。（区・町内会、老人クラブ、子供会、PTAは添付する必要はありません。）

① 代表団体

名称			
代表者		設立年月	会員数
住所	〒		
連絡先	TEL :		FAX :
	E-mail :		
設立の目的・これまでの活動内容等			

② 連携団体（複数ある場合は、記入枠を複写し、各々の団体分記載してください。）

名称			
代表者		設立年月	会員数
住所	〒		
連絡先	TEL :		FAX :
	E-mail :		
設立の目的・これまでの活動内容等			

2 事業計画（ 年度に取り組もうとする活動内容）

① 事業名
② 事業の背景 事業をはじめようと思うきっかけとなった社会状況、市民ニーズ、時代背景などについて記載してください。
③ 事業の目的 ②に対応して、事業を実施することでどのようになりますか。
④ 事業の内容及び実施方法 内容、方法、場所、誰・何を対象に、どれだけなど、事業の具体的な実施内容を記載してください。また、組織体制、内容、手法、情報公開など、事業実施にあたっての工夫についても記載してください。
⑤ 市民参加・協働の拡大 市民にどのような参加の機会を提供できますか、連携団体とどのように連携・協力していきますか。

⑥ 事業のスケジュール

準備から事業終了まで、年度内のスケジュールを具体的に記載してください。

⑦ 期待される効果

地域住民や今後のまちづくりに向けてどのような効果が期待できるか記載してください。

⑧ 将来展望 将来の事業展開について

※今後、どのように事業を継続、展開していきますか。補助期間終了後の活動について記載してください。

※補助期間終了後の経済的自立面について、以下の項目を選択してください。

- 参加費等の対価収入で収益を見込んでいる。
- 対価収入＋補助・寄附金等の外部資金獲得をめざしていく。
- 対価はとれないため、補助・寄附金等の外部資金獲得をめざしていく。
- その他 ※具体的方法を記載してください。

⑨ 備考

その他、アピールしたいポイントなどがあれば記載してください。

申請事業収支予算書

※スペースが不足する場合は、記入枠を拡大して記載してください。

事業名	
-----	--

【支出】

(単位：円)

項目		予算額	内訳・積算根拠
補助対象経費	報償費		(謝礼以外： 円)
	交通費		
	印刷費		
	消耗品費		
	物品費		
	通信料		
	保険料		
	委託料		
	使用料、賃借料		
	食糧費		
	合計	A	
対象外経費			
	合計		
合計			= 「事業費総額」

【収入】

(単位：円)

項目	予算額	内訳・積算根拠
この事業による収入 B		
地域まちづくり補助金 C		
自己資金 D		
合計		= 「事業費総額」

※ **C**、**D** は、下記計算式により算出します。

補助対象経費合計 A	この事業による収入 B	補助率 (8 か 9)	地域まちづくり補助金 C			
(—)	×	/10	=	

(1,000 円未満切捨て)

「事業費総額」	この事業による収入 B	地域まちづくり補助金 C	自己資金 D	
	—	—	=	

◆申請書の記載例（ひろげよう！展開コース）

江南市地域まちづくり補助金（ひろげよう！展開コース） 事業計画書

※スペースが不足する場合は、記入枠を拡大して記載してください。

1 団体概要

名称			
代表者		設立年月	会員数
住所	〒		
連絡先	TEL :		TEL :
	E-mail :		
設立の目的・これまでの活動内容等			
※過去に展開コースで採択された回数（ 回）			

※団体の規約または会則、直近の収支決算書または予算書を添付してください。（区・町内会、老人クラブ、子供会、PTAは添付する必要はありません。）

※展開コースの採択の上限は2回までです。

2 事業計画（令和〇〇年度に取り組もうとする活動内容）

① 事業名
② 問題意識
事業をはじめようと思ったきっかけについて具体的に記載してください。

③ 事業の内容及び実施方法

内容、方法、場所、誰・何を対象に、どれだけなど、事業の具体的な実施内容を記載してください。また、組織体制、内容、手法、情報公開など、事業実施にあたっての工夫についても記載してください。

④ 事業のスケジュール

準備から事業終了まで、令和〇〇年度内のスケジュールを具体的に記載してください。

日程	予定

⑤ 期待される効果

地域住民や今後のまちづくりに向けてどのような効果が期待できるか記載してください。

⑥ 将来展望 将来の事業展開について

※今後、どのように事業を継続、展開していきますか。補助期間終了後の活動について記載してください。

⑦ 備考

その他、アピールしたいポイントなどがあれば記載してください。

申請事業収支予算書

※スペースが不足する場合は、記入枠を拡大して記載してください。

事業名	
-----	--

【支出】

(単位：円)

項目		予算額	内訳・積算根拠
補助対象経費	報償費		(謝礼以外： 円)
	交通費		
	印刷費		
	消耗品費		
	物品費		
	通信料		
	保険料		
	委託料		
	使用料、賃借料		
	食糧費		
合計	A		
対象外経費	お菓子代		
	お茶		
	合計		
合計			= 「事業費総額」

【収入】

(単位：円)

項目	予算額	内訳・積算根拠
この事業による収入 B		
地域まちづくり補助金 C		
自己資金 D		
合計		= 「事業費総額」

※ **C**、**D** は、下記計算式により算出します。

補助対象経費合計 A	この事業による収入 B	補助率 (8)	地域まちづくり補助金 C
(-)	× 8 / 10 =
			<input type="text"/>

(1,000 円未満切捨て)

「事業費総額」	この事業による収入 B	地域まちづくり補助金 C	自己資金 D
	-	-	=
			<input type="text"/>

江南市地域まちづくり補助金（ひろげよう！展開コース） 事業計画書

※スペースが不足する場合は、記入枠を拡大して記載してください。

1 団体概要

名称			
代表者		設立年月	会員数
住所	〒		
連絡先	TEL :		FAX :
	E-mail :		
設立の目的・これまでの活動内容等			

※団体の規約または会則、直近の収支決算書または予算書を添付してください。（区・町内会、老人クラブ、子供会、PTAは添付する必要はありません。）

2 単年度事業計画（ 年度に取り組もうとする活動内容）

① 事業名
② 事業の背景
事業をはじめようと思ったきっかけとなった社会状況、市民ニーズ、時代背景などについて記載してください。
③ 事業の目的
②に対応して、事業を実施することでどのようになりますか。市民にどのような参加の機会を提供しますか。目指す、望ましい状態を記載してください。

④ 事業の内容及び実施方法

内容、方法、場所、誰・何を対象に、どれだけなど、事業の具体的な実施内容を記載してください。また、組織体制、内容、手法、情報公開など、事業実施にあたっての工夫についても記載してください。

⑤ 事業のスケジュール

準備から事業終了まで、年度内のスケジュールを具体的に記載してください。

⑥ 期待される効果

地域住民や今後のまちづくりに向けてどのような効果が期待できるか記載してください。

⑦ 将来展望 将来の事業展開について

※今後、どのように事業を継続、展開していきますか。補助期間終了後の活動について記載してください。

※補助期間終了後の経済的自立面について、以下の項目を選択してください。

- 参加費等の対価収入で収益を見込んでいる。
- 対価収入＋補助・寄附金等の外部資金獲得をめざしていく。
- 対価はとれないため、補助・寄附金等の外部資金獲得をめざしていく。
- その他 ※具体的方法を記載してください。

⑧ 備考

その他、アピールしたいポイントなどがあれば記載してください。

3 長期事業計画（複数年事業を申請する場合に記載）

① 事業計画 ※各々の年度の事業の概要を記載してください。

2年目	3年目

② 予算額

(単位:円)

		2年目	3年目
事業費総額			
財 源 内 訳	事業収入		
	補助金申請額		
	自己資金		

申請事業収支予算書

※スペースが不足する場合は、記入枠を拡大して記載してください。

事業名	
-----	--

【支出】

(単位：円)

項目		予算額	内訳・積算根拠
補助対象経費	報償費		(謝礼以外： 円)
	交通費		
	印刷費		
	消耗品費		
	物品費		
	通信料		
	保険料		
	委託料		
	使用料、賃借料		
	食糧費		
	合計	A	
対象外経費			
	合計		
合計			= 「事業費総額」

【収入】

(単位：円)

項目	予算額	内訳・積算根拠
この事業による収入 B		
地域まちづくり補助金 C		
自己資金 D		
合計		= 「事業費総額」

※ **C**、**D** は、下記計算式により算出します。

補助対象経費合計 A	この事業による収入 B	補助率 (8 か 9)	地域まちづくり補助金 C			
(—)	×	/10	=	

(1,000 円未満切捨て)

「事業費総額」	この事業による収入 B	地域まちづくり補助金 C	自己資金 D	
	—	—	=	